

【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期】【単発】【本会ホームページへの掲載：あり】なし】

共に生きる

関 久子

【推進員認定期】第1期 【所属】(個人ボランティア) 【活動エリア】新座市他

学習対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 小学生（3年） 中学生 高高校生 住民 その他（ ）
内 容	障がい理解（車いす体験、 <input checked="" type="checkbox"/> アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（話と歌） 高齢者理解（高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他（ ） その他の理解（ 身体的障害全体 ）
所用時間	単元時間： 3・4 時限 1回あたりの時数： 45分×2コマ = 90分
ねらい	福祉について考えていく活動を通して、自分たちに出来ることは何かを考え、よりよい活動となるように 工夫しながら取り組もうとする意欲を培い、自分たちが計画した活動を相手の立場を考えながら、よりよく判断し、改善し実践すると共に、地域社会に積極的に関わり自分の思いを実践することが出来ることを目指す。即ち「自分の幸せ・みんなの幸せ」

はじめに

講師が用意する物： 1. 実施校のある市町村に居住する障害者数の把握（障害別）
2. 身体的障害を持ちながら 社会で活躍している障害者の記事、写真など。
3. 「ふ」「く」「し」A4紙一枚に一字 各字に続いて
「ふ」 ふだんの 「く」 くらしの 「し」 しあわせ を折畳む
4. 「ウォーリーを探せ」から一ページ プリントしておく（生徒数）
5. 「お話し」の中にでてくる Key Words を 貼付用に書いておく。

学校側が準備すること： 1. 体育館内に *白板（ペン：2色） *展示版（講師が用意した写真添付用）
2. 障害物として・・・跳び箱、調整台、平均台 など
3. 「ふくし」の歌他計3曲 替え歌のため 音楽教師の協力
伴奏曲・・・「すうじのイチはな～に」
「僕の大好きなクラリネット」
「友だちになるために」（Meeting for our future）

実践内容

- * 自己紹介....
- 導入…今日のお話のタイトルは「福祉」 白板に「福祉」を貼付
- 生徒たちに 読めるか 分かるか 問いかけからスタート 3年生では未習
- 教師に聞く ふりがな…以後教師も引っ張り込む。

： 替え歌用 「数字のイチはな～に」 ピアノで流す。

生徒を3人選び 一人一枚 「ふ」「く」「し」を持たせて前に並ばせる。

問い合わせ 「ふ」は何かな？ 「ふ」を持つ生徒は広げる。 みんなで読む「ふだんの」ふ。

「く」「し」も 同じようにする。 ピアノ曲 流れている… 歌う。

ふくしのふは な～に？ ふだんの「ふ」で～す。広げながら…

「く」「し」も同じようにして斉唱。 * 男女に分かれて「…な～に」と問い合わせ 「…です」と返したりして 「福祉」の意味定着を目指す

本題に流れしていく…以後 生徒との会話形式で すすめる。

1. 「福祉って何？」 ふだんの暮らしのしあわせって なに？

2. Welfare から Well-being 「よい状態 = 幸せであること」とは

悪い状態は幸せでないのか？ 体のどこかが不自由なことは不幸なのか

3. 実施校市町村の 障害者居住状態などに広げる。街の人口と障害者人口の対比
協力参加の車椅子などの推進員に 問いかける。「不幸ですか？」

4. 展示板・貼付されている障害者紹介・レーナマリア、全盲ピアニスト etc.

5. 不自由をなくすため工夫、手助け みんなの手・足・口がお手伝いできる。
どうやって？

休憩 この間に ワークショップの用意 教師「ウォーリーを探せシート」配布

ワークショップ： 「ウォーリーを探せ」

課題 もしウォーリーが目の不自由な人だったら？…シートの歩くのに邪魔になるところに「赤バツ」をつける 歩けない…ぶつかっちゃう

替え歌「僕の大好きなクラリネット」…「どうしよう…ウォーリーが歩くとぶつかっちゃう…」

アイマスク体験 …目の不自由なウォーリーになって 講師のところまで歩く

a) マスクを着用して一人で歩く… 男女一人ずつ と 担任教師一人
どうしよう…生徒から 「見えない一人歩き」の体験を聞く 怖かった etc

b) 介助する人と障害物設置の中を歩く 安心して歩けた。

ウォーリーシート …赤バツのところ 一緒に歩けば大丈夫に「」をつける

締め… 大切な一人のために お役に立てるようになりたい

*「ともだちになるために Meeting for our future」全員起立して斉唱

ここがポイント！

普通の暮らしの中の幸せを 3年生には難しい「福祉」という言葉を説明でなく 歌う事で体で覚える。「ウォーリーを探せ」既知の絵本を通して、自分が目の見えないウォーリーになって体感する。歌と絵本の人物になって…が 3年生の福祉理解のポイント

成果と課題

振り返りシートによると…自分の街に1000人以上の体の不自由な人がいることがわかった。助けたい、意味がわからなかった「ふくし」がよく分かった。ウォーリーが目が見えない時とっても勉強になった 心の目がひらかれた。など…今後これをどう育てるかが課題となる。